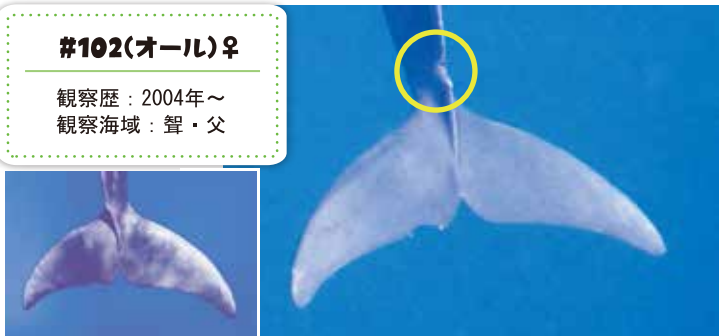


小笠原で暮らすイルカたち～特徴が増えた個体たち～

ミナミハンドウイルカの個体識別の際には、背ビレや尾ビレなどに見られる大小の欠損、体表に付いた傷跡や白斑、ダルマザメの噛み跡などを手がかりにします。これらの特徴の多くは、厳しい自然界での暮らしを通して変化していきます。今回は、ここしばらくの間に特徴が増えた個体たちをご紹介します。

#102(オール)♀

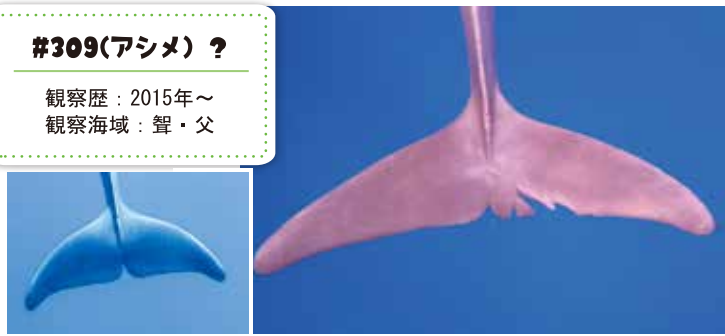
観察歴：2004年～
観察海域：聳・父



尾ビレに丸いおできのある#100（おたまちゃん）の子供。背ビレ、両胸ビレ、尾ビレのすべてに特徴のある個体です。2020年夏、尾ビレの付け根付近に目立つ欠損が確認されました。

#309(アシメ)？

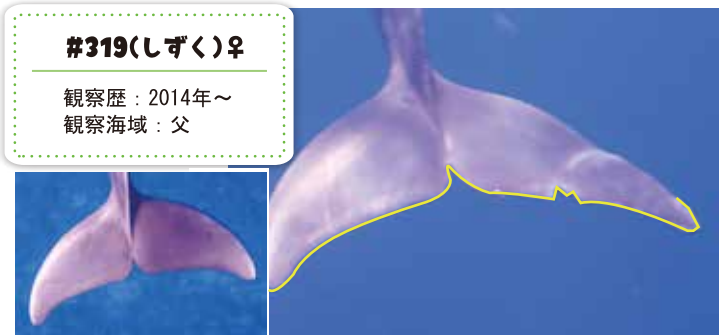
観察歴：2015年～
観察海域：聳・父



左右にずれたくちばしの左側にはミミエボシが付着しています。2021年以降、尾ビレの右側に大きな欠損ができているのが確認されました。

#319(しずく)♀

観察歴：2014年～
観察海域：父



顔の右側にしずくが流れたような傷がある個体。これまできれいな尾ビレをしていましたが、ここ数カ月の間に尾ビレの右側に欠損ができたようです。

#332(キヨモリ)♂

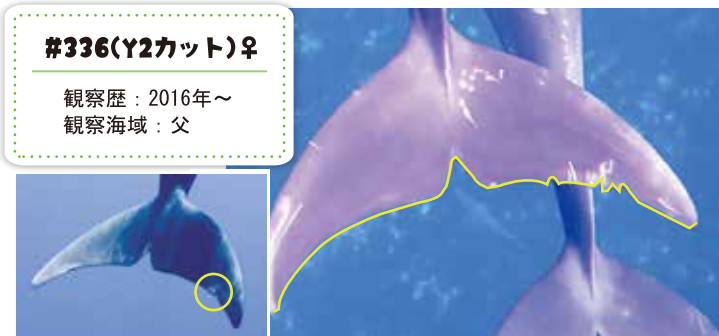
観察歴：2015年～
観察海域：聳・父



先端が少し欠けて平らになった背ビレが特徴。心なしかくちばしも角張って見えます。2022年、左目上の傷が治り、星形の白斑となっているのが確認されました。母親は#6（カクン）。

#336(＼2カット)♀

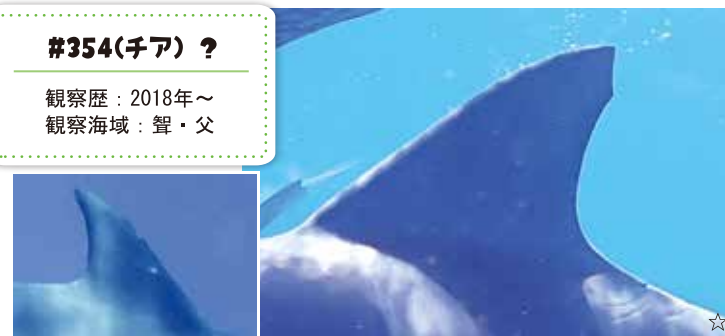
観察歴：2016年～
観察海域：父



尾柄部にある2つの浅い切れ込みが名前の由来です。2022年には初めて子供を連れているのを確認。最近、尾ビレ右側の欠損がほんの少し増えました。

#354(チア)？

観察歴：2018年～
観察海域：聳・父



尾柄部がざっくりと欠けているのが特徴。2021年、背ビレの先端が大きく欠損しているのが確認されました。船上からでも容易に識別可能です。

写真提供：☆打込みゆき、※江口博美